

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 株式会社三恵コンサルティング

1. 事業名称 「STEP0(ゼロ)から学ぼう 家族で参加できる日本語教室！！生活編」

2. 事業の目的

日本語を学びたいというニーズは高いものの、多くの日本語教室が週末の開講であるため、外国人が通いやすい平日の夜などの時間帯に講座がなかったり、また、既存の日本語教室では、座学での話込み型の講座が多く、学んだことをすぐに実践し、その上で新たに感じた疑問を解決する仕組みがないことが多い。この度の事業では、学習者が参加しやすい時間帯や立地を念頭に置き、日本特有の制度や仕組み、また、生活する上での便利なツールや方法を、生活に必要な日本語を通じて座学と実践の組み合わせで学び、生活能力の向上を目指す。

3. 事業内容の概要

昨年度、文化庁よりの委託事業としての生活に必要な日本語教室と独自事業としての日本語教室を開講し、それぞれの教室内での学習者のレベル差もあり、一部の学習者や見学に数回訪れた学習希望者から『今のテキストの内容では少し難しく感じる時がある』『もっと基礎からしっかり学びたい』『数多くの内容(トピックス)を覚えるよりは、一つ一つのことを反復して確実に覚えたい』という声も聞かれた。

これらの意見と地域の実情・課題を踏まえ、この度の事業では、生活する上での便利なツールや方法も、実践を取り入れながら日本語と共に学び、生活能力の向上を目指すために、下記の内容にて教室を開講する。

■週末中心の日本語教室は地域に既にいくつかあるため、平日の夜が学びやすいとする学習者を対象に毎週金曜日の20時～22時を中心に開講する。

■座学で学んだことを実践できる場を設け、実際に自分が体験をしたことで新たに生じた疑問や質問を次回の座学で解決し、理解度を深め、確実な知識とする。(平日の夜に座学、土曜日に実践授業)

■コース当初の4回(8時間)は初級と上級にクラスとテキストを分ける。(詳細は、企画書内「3. 日本語教育の実施」-「内容」を参照)

■外国人には分かりづらい日本の制度や仕組み、学校行事を題材に日本語を学ぶ。

■詰め込み学習ではなくその学習で得た語彙や表現を使って会話スキットを自らで作成するなど日本語で考える力も身につける。

■日本語の表現にあるその文化的背景や日本人特有の考え方や習慣なども一緒に学ぶことで、なぜそういった表現が使われるのかについても学習する。

■学習者のニーズや理解度に合わせて、副教材や時事ニュースの音源(NHKラジオニュース、NHK NEWS WEB EASY「やさしい日本語のニュース」)なども利用する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年9月28日(木) 18:00～19:00	1時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	渡辺マルセロ様 登田アンナ様 三上憲一 羽山千尋	学習希望者の現状報告、使用テキストの検討、環境づくりの検討	使用テキストには漢字(N4N5程度)、ローマ字表記、幼児を連れて来る親への対応
2	平成26年10月30日(木) 18:00～19:00	1時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	渡辺マルセロ様 登田アンナ様 講師A 三上憲一 羽山千尋	学習者の現状報告、講座の問題点の検討、日本語ボランティア養成講座の概要と内容	学習者の継続を維持するためのルール
3	平成26年12月11日(木) 18:00～19:00	1時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	渡辺マルセロ様 登田アンナ様 宇根 勇治様 講師A デモウラ ダニエラ様 マクリング ロセラ様 サイトウ アリネ様 三上憲一 羽山千尋	学習者と講座の現状報告、講座の問題点の検討、日本語ボランティア養成講座の概要と内容	学習者のレベル差への対応、中学生への教室でのルール
4	平成27年1月29日(木) 18:00～19:00	1時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	渡辺マルセロ様 登田アンナ様 三上憲一 羽山千尋	学習者と講座の現状報告、講座の問題点の検討、地域日本語教育実践プログラム(A)来年度の提案	再度告知、日本人ボランティアとの実践授業、来年度の学習者レベルと対象者、実施期間
5	平成27年3月19日(木) 18:00～19:00	1時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	渡辺マルセロ様 登田アンナ様 三上憲一 羽山千尋	学習者と講座の現状報告、講座の問題点の検討、事業の振り返り、地域日本語教育実践プログラム(A)来年度の提案	来年度の学習者へのルール、学習者の継続

5. 日本語教育の実施

- (1) 講座名称 「STEP0(ゼロ)から学ぼう 家族で参加できる日本語教室！！生活編」
- (2) 目的・目標 日本特有の制度や仕組み、また、生活する上での便利なツールや方法を、生活に必要な日本語を通じて座学と実践の組み合わせで学び、生活能力の向上を目指す。
- (3) 対象者 日本語を学ぶ意欲のある外国人であれば誰でも
- (4) 開催時間数(回数) 62 時間 (全31回)
- (5) 使用した教材・リソース 『おたすけタスク』『日本語コミュニケーションゲーム』『ほんごこれだけ1・2』『しごとの日本語』『ゼロからスタートにほんご会話』『いっぽにほんごさんぽ』
- (6) 受講者の総数 7 人
- 出身・国籍別内訳

中国	0人	インドネシア	0人
韓国	0人	タイ	0人
ブラジル	1人	ペルー	0人
ベトナム	0人	フィリピン	6人
ネパール	0人	日本	0人

(7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年9月5日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	フィリピン人(7人) ブラジル人(1人)	自分について紹介する	基本的な挨拶、初対面の挨拶、お辞儀の仕方を学び、名前・国籍・年齢を言う練習をした。相手のことを丁寧に聞く練習をし、実践で自己紹介し合った。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
2	平成26年9月12日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	7人	フィリピン人(6人) ブラジル人(1人)	自分について紹介する	日本と母国の挨拶の仕方を比較し、挨拶をするときのイントネーションや態度を学んだ。家族構成や呼称の言い方を学び、名刺カードを使って自己紹介した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
3	平成26年9月19日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	7人	フィリピン人(4人) ブラジル人(3人)	色んな店での買い物	お店で購入できる物について話し合い、商品の場所・サイズの変更・試着を申し出るとき・レジ袋の要否の言い方を学んだ。色々な場面設定をし、おもちゃのお金で「店員」と「お客」のロールプレイをした。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
4	平成26年9月26日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	フィリピン人(6人) ブラジル人(2人)	電話での施設の予約や問合せ	美濃加茂市の施設の情報をパンフレットから読み取り、なぜその施設を使いたいのか考え、利用希望日時を伝え、休館日を聞けるか電話を使って実践した。曜日カルタを使い、親子でカルタとり大会をした。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
5	平成26年10月3日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	6人	フィリピン人(5人) ブラジル人(2人)	公共交通機関の利用と道案内	同市の公共交通機関の場所を確認し、路線図・時刻表を使い旅行の計画を立てた。最短ルートや交通費の質問ができるよう会話練習、ロールプレイをした。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
6	平成26年10月10日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	5人	フィリピン人(5人) ブラジル人(0人)	公共交通機関の利用と道案内	日常生活で目的地まで行く際の手段や距離・時間について話し合った。同士の地図を使って、道の尋ね方を学び、次に目的地への行き方・周辺の目印・かかる時間を伝える練習をした。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
7	平成26年10月17日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	9人	フィリピン人(9人) ブラジル人(0人)	日本の四季と行事、文化	日本や同市の行事について知り、その行事の内容・時期・場所を質問した。母国や故郷にある行事を説明し、他の行事について質問し合った。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
8	平成26年10月24日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	13人	フィリピン人(11人) ブラジル人(2人)	郵便物を送る受け取る	送り方(郵便・航空便・国際小包)の種類を知り、値段や日数を聞く練習をした。はがき・切手の購入の仕方の会話練習をし、ご不在連絡票の意味や対応の仕方を学んだ。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
9	平成26年10月31日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	7人	フィリピン人(5人) ブラジル人(2人)	不動産でアパートを契約する	日本で家を借りるときの難しい点・困る点を話し合い、現在のアパートの様子、アパートの要望を言う練習をした。間取り図を見て、漢字の略語を理解した。不動産屋とのトラブルを避けるために「共益費」「礼金」等の言葉を学んだ。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
10	平成26年11月7日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	フィリピン人(6人) ブラジル人(2人)	日本の歌を歌う	日本の歌を知り、学習者は好きな歌を紹介し合った。「ふるさと」の歌を学んだので、生まれ育った場所、国の有名な物、小さい頃の思い出を発表した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
11	平成26年11月14日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	フィリピン人(8人) ブラジル人(0人)	症状を伝える	学校や会社を体調不良で休むときの理由・症状を伝える練習をし、休むときときの連絡のタイミングや注意点を学んだ。オノマトペを使って、体の症状の伝え方も勉強した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ

12	平成26年11月21日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	フィリピン人(8人)ブラジル人(0人)	症状を伝える	通訳派遣が可能な岐阜県と同市の病院を紹介し、医者の指示を聞き、症状・体温を伝えるロールプレイをした。漢字で書かれている診療科の看板を見て、文字から何科か連想できるように漢字ゲームをした。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
13	平成26年11月28日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	11人	フィリピン人(9人)ブラジル人(2人)	休みの過ごし方	休みの日に何をするかペアで話し合い、次に同市の季節ごとのイベントと、情報の集め方を紹介した。チラシを読み、「日時」「会場」「入場無料」の広告紙で使われる言葉の意味を勉強した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
14	平成26年12月5日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	5人	フィリピン人(5人)ブラジル人(0人)	友だちをさそう	チケットを使って、友だちを誘う練習と誘いを受ける・断る返答の仕方を学んだ。誘いを断るときの丁寧な言い方や語尾の長さ、人との約束を守る大切さや遅刻への対処方法を実践した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
15	平成26年12月12日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	9人	フィリピン人(4人)ブラジル人(3人)	日本の結婚式に参加する	日本の冠婚葬祭に参加するときの服装を知り、母国の結婚式と比較した。結婚する友人へのお勧めの贈り物を探る言い方を練習した。おくらない方がよいとされるギフトについて考えた。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
16	平成26年12月19日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	7人	フィリピン人(4人)ブラジル人(3人)	分からない言葉を尋ねる	「～という」を使い、生まれ育った場所・学校の名前・国で有名な人物・食べ物についてインタビューをした。「門松」「羽子板」の写真、「文房具」を見せて、物や場所の名前を日本語で尋ねる言い方を練習した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
17	平成26年12月21日(日) 9:00～12:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	10人	日本(7人)ブラジル(2人)フィリピン(1人)	電話での施設の予約や問合せ、TPOに適した話し方	日本人ボランティアが事前に準備した授業案を使って、グループごとに模擬授業をした。自己紹介とインタビューテストを実施し、絵カードを使って分かりやすく説明した。最後に指導者と講師が双方の意見を聞き、分からなかった点・感想について後日発表した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
18	平成26年12月26日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	5人	フィリピン人(4人)ブラジル人(1人)	年賀状を書いて送る	年賀状や自分の干支について知り、年賀状の書き方を学んだ。実際に年賀状を書き、名前や住所を書く練習をした。外国に年賀状を送れることやお年玉くじについても紹介した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
19	平成27年1月9日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	4人	フィリピン人(3人)ブラジル人(1人)	災害の危険から身を守る	色々な場面(家・外・デパート・乗り物の中)にいるとき、地震が起きたらどのように身を守るか学んだ。避難カードを書き、避難グッズについて何を持って行くか話し合った。避難グッズの実物を紹介した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
20	平成27年1月16日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	4人	フィリピン人(4人)ブラジル人(1人)	災害の危険から身を守る	地震の恐ろしさを写真で見ながら、避難場所や家周辺の避難所を地図上で確認した。避難所で受けられる支援や避難時の服装・注意点をクイズ形式で学んだ。災害時の言葉を多言語で知り、話す練習した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
21	平成27年1月23日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	日本(4人)フィリピン(4人)ブラジル(0人)	TPOに適した話し方	「今、いいですか?」「聞いてもいいですか?」の許可をとる言い方を練習し、日本人にインタビューをした。次に市にある禁止マークを見て、どこで見たことがあり、なぜそこではダメなのか意見を言い合った。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
22	平成27年1月30日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	12人	日本(6人)フィリピン(5人)ブラジル(1人)	災害の危険から身を守る。TPOに適した話し方、症状を伝える	学習者が課を選び「今日の学習内容」を話し、目標を決めて1対1で教えた。日本人と外国人同士で、子どもの学校の様子・行事・授業参観について話し合っていた。全体で節分について学び豆まきをした。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
23	平成27年2月6日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	3人	フィリピン人(3人)ブラジル人(0人)	現場の状況を伝える	同市の警察署・交番の役割を知り、事故を目撃したとき、どこに連絡し対応するか学んだ。実際に電話を使って警察官と目撃者のロールプレイをし、現在地・名前・電話番号・事故の様子を伝える練習をした。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
24	平成27年2月13日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	フィリピン人(7人)ブラジル人(1人)	オノマトベ(擬態語や擬音語)での表現	オノマトベで体の症状・気持ち、物の動き・人・動物、天気の様子を学んだ。母国と日本のオノマトベの表現の仕方を比較して、日本語のオノマトベを使って、好きな物や気持ちについて説明し発表した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
25	平成27年2月20日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	フィリピン人(8人)ブラジル人(0人)	ハローワークで仕事を探す	同市にあるハローワークの場所・通訳の有無・ハローワークとは何かを学んだ。仕事の経験や自分の得意なこと、仕事への要望を伝える練習をした。ハローワークに行く際に持って行く書類を知った。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
26	平成27年2月27日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	6人	フィリピン人(5人)ブラジル人(1人)	色々な手続きをする	同市の市役所の場所・市役所でできることを知り、実際の「窓口案内」を使って、受付から窓口までの会話練習をした。課の名前を日本語で学び、書類の書き方・要否書類の質問の仕方を場面設定し練習した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
27	平成27年3月6日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	6人	フィリピン人(5人)ブラジル人(1人)	地域活動に参加する	地域活動とは何か、地域活動のルールを学び、あいさつ・自己紹介・質問の仕方を復習した。実践活動で何を行うのかチラシを読んで、役割分担を決めた。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ

2829	平成27年3月7日 (土) 10:00～14:00	4時間	美濃加茂支店 三 恵コンサルティン グ／中山道会館	13人	日本(6人)ブラ ジル(2人)フィ リピン(5人)	地域活動に参加 する	様々な国の数字を言ってグループを作り、自己 紹介した。日本人に巻き寿司の作り方を教えて もらいながら、お弁当を作った。同市に関するク イズカードを使い歩きながら問題を解き、観光協 会で質問したり、禁止マーク・避難所・バス停の 確認をしたりした。中山道会館に到着後、昼食 やクイズの正解発表、ゲームをし同会館の資料 館で歴史を学んだ。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
30	平成27年3月13 日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三 恵コンサルティン グ	7人	フィリピン人(7 人)ブラジル人 (0人)	具体的に伝える	「いつ・どこで・誰が・何を・どうだったか」を具 体的に伝えられるよう連想ゲームを通し、考えを豊 かにする練習をした。最近の出来事を箇条書き でまとめ、相槌を取り入れインタビューし合い最 後に発表した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ
31	平成27年3月20 日(金) 18:00～20:00	2時間	美濃加茂支店 三 恵コンサルティン グ	7人	フィリピン人(6 人)ブラジル人 (1人)	これからのわたし	講座の感想・目標を考え、場面設定をテレビ局 にし、インタビューする人・される人・視聴者で、 相槌しながら講座について発表し合った。講座 の川柳を作り、発表し80%以上の出席者に修了 書を渡した。	羽山千尋	房前ミレーナ 倉岡ジュリアナはるえ

(8) 受講者の募集方法

近隣の外国人集住地域にチラシを配布し、人数が減った際にさらに再配布。近隣の外国人向けスーパー、レストランで受講生募集チラシの掲示。Facebookでの告知。美濃加茂市役所(地域振興課)、美濃加茂市国際交流協会、岐阜大学留学生センター、岐阜市立女子短期大学、岐阜市と岡崎市にある国際行政書士事務所、坂祝町定住外国人自立支援センター、株式会社リベルタに告知及びチラシを配布。11月15日の中日新聞に掲載。『外国人に日本語教えて 美濃加茂ボランティア養成講座始まる』

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

■第4回

美濃加茂市の施設について学んだ後、曜日の言い方を練習した。子どもも交えた、「曜日からたとり」を行った。例えば「〇〇施設は何曜日が休み?」「今日は何曜日?」などと聞いて、親子が協力して学ぶことができた。

■第22回

日本人ボランティアが日本語ボランティア養成講座で学んだことを生かし、1対1で学習者に日本語を教えた。以前は学習者より日本人の方が話すぎたり、説明が難しすぎたりしたが、今回は学習者が何を求めているのか考えながら落ち着いて進めていた。ただ教えるだけではなく、「単語→導入→練習→会話→今日の学び」という風に流れをつかんでいたのも、学習者の声がよく聞こえた。

■第28回、29回

日本人と外国人が今後良い関係を築き、双方が互いの良い所を知り、偏見なく社会の一員として認め合えるよう地域活動に参加した。準備から片付けをし、協力し合いながら活動することができた。双方から「また来年もやりたい!」という声があった。



(10) 目標の達成状況・成果

美濃加茂市の病院・市役所・ハローワーク・駅・施設等、外国人がよく利用する場所で、どんなことが困ったか・何を伝えなかったか初めに話を聞いた。そしてそれらを会話に取り入れ、色々な発話練習(口頭練習・ロールプレイ・インタビュー・発表)で以前より格段に話す力がついた。学んだことをすぐ生かせるよう会話の宿題を出したのも効果的で、さらに実社会で何ができるようになったか発表する機会を設けた。話すのに自信がついただけでなく、美濃加茂市に関する行事・予防接種・避難所等の生活の上で必要なことも学べた。さらにそれらの情報収集の仕方を知ることができたので、以前にまして生活が便利になったと言う意見が多かった。年齢制限がなかったのも、19時以降も、集団で外で遊んでいた中学生が日本語教室に来るようになり、講座終了後、すぐ帰るようになったので保護者からは「安心」という声があった。地域全体で彼らを見守る体制が整っていくと良い。

(11) 改善点について

家族で参加できる日本語教室だったので、初めは子どもも連れて来ていたが、子どもが騒ぎし訳なく思う親が多く継続できなかったケースがあった。学びたい気持ちがあるものの、家で子どもを見てくれる人がいないため辞めざるを得なかった。子どもも安全に学べるよう、教室の環境も気をつけ、絵本や音のでないおもちゃも用意するよう保護者をお願いをした。保護者だけでなく、子どもを連れて来ない学習者にも、事業の説明をし理解してもらった。親子が学べるようテキストの文を少なめに一目で理解できるようイラストや実物を用意した。親子で体を動かしたり、ボールを使ったりして学んだが、最後まで継続できたお母さんは少数であった。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称
日本語を教えるボランティア養成講座
- (2) 目的・目標
当事業『STEP0(ゼロ)から学ぼう家族で参加できる日本語教室！！生活編』の教材を使用した日本語教師を開くことができる人材を養成
- (3) 対象者
日本人、外国人どちらでも
- (4) 開催時間数(回数) 33 時間 (全 11 回)
- (5) 使用した教材・リソース

日本語の教え方 短期実践講座 ①外国語としての日本語教育 アルク ⑧外国人とのコミュニケーション アルク 国際交流基金 日本語教授法シリーズ 4文法を教える ひつじ書房 9初級を教える ひつじ書房 実践にほんご指導 見なおし本 K、A、I、T ask 日本語文法 学習者によくわかる教え方(藤田直也 アルク) みんなの日本語初級 I 書いて覚える文型練習帳、導入イラスト集、練習C・会話イラストシート(スリーエーネットワーク)

- (6) 受講者の総数 9 人
- 出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	9人	

- (7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年11月9日(日)9:00～12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	3人	日本(3人)	地域の日本語教育や教室の現状について、日本語教室の事業計画書の作り方(調査・運営編)	「愛知県 多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方」の巻末統計データを見ながら、実際に同指針の策定に携わった当社の三上から地域の日本語教育や教室の現状について話す。実際に日本語教室を始める前に、事業計画の策定方法等を学ぶ。	三上憲一	羽山千尋 房前ミレーナ
2	平成26年11月16日(日)9:00～12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	4人	日本(4人)	他地域の日本語教室や日本語教育の取り組み、他団体や関係者、関係機関との連携	他地域の先進事例や好例を前回の指針の巻末データにある外国人ニーズのアンケート結果と照らし合わせながら見る。他団体や関係機関との連携例や連携方法等についても学ぶ。	三上憲一	羽山千尋 房前ミレーナ
3	平成26年11月30日(日)9:00～12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	日本(8人)	在日外国人の話、外国語としての日本語	ブラジルから家族とともに来日し、中学校から高校に進学、その後、就職したり、起業してしたりして日本で長年生活してきた日系ブラジル人の苦労話や体験談を聞く。日本語を外国語として捉え、聞く、話す、書く、読むのそれぞれの力を付けるにはどうしたらよいかについて考える。会話型自己紹介によるアイスブレイク。	渡辺いく子	羽山千尋 房前ミレーナ
4	平成26年12月7日(日)9:00～12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	日本(8人)	日本語のレベルとクラス分け	日本語教室では 習得の度合いによって入門から上級まで分けることができるが、どのようなことを基準にしているのか。また、自作テキスト「学び、知って、使う！生活に必要な日本語」はどのような内容になっているのかを考える。	渡辺いく子	羽山千尋 房前ミレーナ
5	平成26年12月14日(日)9:00～12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	日本(8人)	「学び、知って、使う！生活に必要な日本語」教室の進め方	日本語教室を行う上で、話題設定、目標設定、導入語彙と文型、教材と教具、会話練習、タスク練習が必要なことを知り、どのようにやっていけばよいか考える。その後、入門期の外国人を対象とした具体的な教案を作成。	渡辺いく子	羽山千尋 房前ミレーナ

6	平成26年12月21日(日)9:00~12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	日本(8人)	日本語ボランティアの動き	日常生活の中で使う日本語、日本文化、日本事情をどのように教室で取り入れていったらよいか考える。その後、入門期の外国人数名に参加してもらい、模擬授業を実施。	渡辺いく子	羽山千尋 房前ミレーナ
7	平成27年1月11日(日)9:00~12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	日本(8人)	言語習得の流れ	外国語を習得していくにはインプットとアウトプットが必要であることがわかり、その後、各自が体験した模擬授業を振り返る。成果と課題を交流。	渡辺いく子	羽山千尋 房前ミレーナ
8	平成27年1月18日(日)9:00~12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	日本(8人)	日本語教室での会話練習の必要性	会話には基礎練習から始まり、応用会話へと段階を踏んで導入していけば 初級レベルの人にも無理なく習得できることを知り、どのような方法があるのか考え、その後、具体例を出して実践。	渡辺いく子	羽山千尋 房前ミレーナ
9	平成27年1月25日(日)9:00~12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	6人	日本(6人)	日本語の誤用と化石化を講義。日本語教室に在籍する初級レベルの人に教える教案を考える。	習得段階で見られる誤用を知り、教えていく上で気をつけること、また母語が邪魔をして正しく発音ができない場合の直し方について実技を交えて実践。各自が日本語教室で行う授業に向けての教案作り。	渡辺いく子	羽山千尋 房前ミレーナ
10	平成27年2月1日(日)9:00~12:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	8人	日本(8人)	日本語教室での授業の振り返り。修了式	日本語教室での各自の模擬授業を振り返り、授業案の必要性和今後への役立て方を知る。その後、各自が振り返りを実施し交流。これまでの講義全体をまとめ、改めて、生活者に必要な日本語とは何かを問い直す。	渡辺いく子	羽山千尋 房前ミレーナ
11	平成27年3月7日(日)10:00~13:00	3時間	美濃加茂支店 三恵コンサルティング	6人	日本(6人)	日本語教室にボランティアとして参加する。	当事業で開催されている日本語教室にボランティアとして参加し、日本語や日本の文化を教える実践的な活動をした。	三上憲一	

(8) 受講者の募集方法

美濃加茂市役所(地域振興課)、美濃加茂市国際交流協会、美濃加茂市、岐阜大学留学生センター、岐阜市立女子短期大学、岐阜市と岡崎市にある国際行政書士事務所、坂祝町定住外国人自立支援センター、株式会社リベルタに告知及びチラシを配布。11月15日の中日新聞に掲載。『外国人に日本語教えて 美濃加茂ボランティア養成講座始まる』

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

■第3回

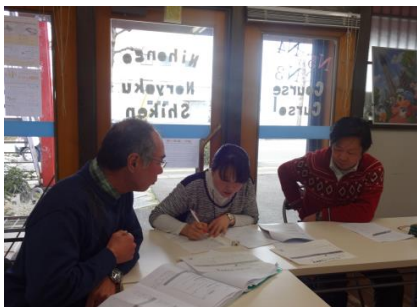
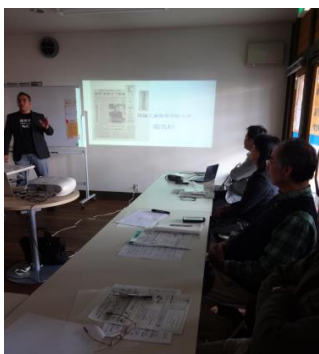
前半は 日系ブラジル人の方からパワーポイントを使いながら、日本での暮らしや体験談などを見たり、聞いたりした。言葉だけではなく、文化の違いや考え方の違いがよくわかるものだった。後半は 生活者として暮らしている外国人とその子どもたちの現状を知らせ、生活者に必要な日本語はどんなものなのか、どのように教えていったらいいのかを考えていった。また、初めて出会った人達がお互いを知り、打ち解けるための方法として、自己紹介を兼ねた活動を行った。

■第6回

前半は講義形式だったが、後半は外国人参加による模擬授業を実施。入門期の外国人に、グループで考えた授業案に基づき、授業を実施。授業後、全員で振り返りを行い、交流した。できた問題点などを出し合い、解決策を考えた。

■第10回

前半は 日本語教室で各自が行った授業について交流。その後、各自の授業の実際の流れを授業記録に記入、反省点や改善点なども付け加えて記入。今後も自分の授業や、日本語教室の講師間で交流する時に活かせるような記録作りをした。後半は この講座を通じて、各自が実践した2度の模擬授業から、もう一度、生活者に必要な日本語とはどんなもので、どのように教えていったらいいのかを考え直した。



(10) 目標の達成状況・成果

初回から自作テキスト「学び、知って、使う！生活に必要な日本語」の内容を提示し、なぜ、このような内容になっているのかを考えさせたり、自分ならどのようなことを大切にしていきたいかなどを考えさせ、生活に必要な日本語をどう教えていったらいいのかを意識させた。また、全員が外国人参加による模擬授業を2回実践したことにより、外国人の日本語習得の様子を実感したり、日本語教室のあり方について考えることができた。結果、地域の日本語教室に自ら参加し、教え始めた人も数名いる。また、日本語教室設立を考えている人も数名おり、講義に対する姿勢は真剣であった。参加者全員が日本語教室に対して熱心で、協力的であり、講義全体を通して、なごやかな雰囲気の中で行うことができた。日本語教室での授業実施後に行った季節に合わせた節分行事では、外国人の人達と一緒に楽しく行うことができた。

(11) 改善点について

1回目の模擬授業では入門期の日本語を教える設定で授業案を考えたが、実際に参加した外国人は初級程度のレベルであったため、授業をやりながらやり方を変更するなどした。しかし、日本語を教えるためには準備が必要であることやその人に合ったものであることが大切であることがわかった。また、2回目の模擬授業では1回目の実践を踏まえて臨んだが、入門期から初中級レベルの外国人であったため、準備不足やレベルが合っていないなどの問題点があった。教えた経験がない人は授業でインプットが多くなりがちであり、言葉もコントロールされていないため、わかりにくいものになってしまう。それを解決するためにも、アウトプットを必ず取り入れることをもっと強調していくべきだった。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称「学び、知って、使う！生活に必要な日本語」
- (2) 対象 初級
- (3) 目的・目標

各カリキュラムに、「課題」を設定し、座学とその学んだことを地域で実践する「タスク、宿題」を通して、受講生が生活能力の向上を実感し、学習意欲や習得度の向上につながるような教材開発

- (4) 構成・総ページ数
・今日の目標・会話スキット・よく使われる言葉と表現・タスク、宿題 P133
- (5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年8月7日 (木) 18:00～22:00	4時間	美濃加茂支店 三 恵コンサルティング	羽山千尋、三上憲一、倉岡 ジュリアナはるえ、房前ミ レーナ	顔合わせ、事業内容の説明、それぞれの役 割分担	質疑応答とスケジュールの再 確認
2	平成26年8月21 日(木) 18:00～22:00	4時間	美濃加茂支店 三 恵コンサルティング	羽山千尋、三上憲一、倉岡 ジュリアナはるえ、房前ミ レーナ	叩き台テキストのレビュー	・叩き台テキストの修正箇所 を検討 ・表現、語句統一の徹底
3	平成26年9月4日 (木) 18:00～22:00	4時間	美濃加茂支店 三 恵コンサルティング	羽山千尋、三上憲一、倉岡 ジュリアナはるえ、房前ミ レーナ	・テキスト(第1回～第11回)のレビュー ・誤字脱字最終チェック	各自の担当箇所以外も持ち 帰り、最終チェック
4	平成26年9月11 日(木) 18:00～22:00	4時間	美濃加茂支店 三 恵コンサルティング	羽山千尋、三上憲一、倉岡 ジュリアナはるえ、房前ミ レーナ	・テキスト(第12回～第22回)のレビュー ・テキストの使用感想報告	各自の担当箇所以外も持ち 帰り、最終チェック
5	平成26年10月2 日(木) 18:00～22:00	4時間	美濃加茂支店 三 恵コンサルティング	羽山千尋、三上憲一、倉岡 ジュリアナはるえ、房前ミ レーナ	・テキストの使用感想報告 ・過去4回の授業で理解が及ばなかった、伝 わりにくかった箇所の報告	受講生のレベルに合わせた テキストに修正
6	平成26年11月6 日(木) 18:00～22:00	4時間	美濃加茂支店 三 恵コンサルティング	羽山千尋、三上憲一、倉岡 ジュリアナはるえ、房前ミ レーナ	テキスト(第23回～第31回)の叩き台検討	受講生のレベルに合わせた タスク、宿題、実践の再検討

(6) 使い方

初めにその課に関するイラストや実物を見せたり、場所を聞いたりする。今日の内容と目標を伝え、会話のスキットを声に出して読む。分からない言葉に線を引き、後でイラストを使って説明する。必ず覚えて帰って、使えるようになってほしい文法を紹介し、自分で文を作って発表してもらい。会話のスキットを参考にしながら、ペア同士で短い会話練習をする。言葉が定着したら、新しい言葉を使うように促す。学んでいる課に関する美濃加茂市について紹介し、学習者が困ったことがあったか等を聞き全体で会話をする。ボールやかるた、さいころ等を使って体を動かしながら、言葉を覚え、最後にもう一度今日の学びを復習し、皆の前で発表をする。自己評価シートを記入する。

(7) 具体的な活用例

「日本と母国の習慣について○×で比較する」「職業や買い物等のイラストを参考にし、会話する」「学習者同士でインタビューする」「下線の言葉のみを変更し会話練習」「チラシを見て情報を得る」「イラストを書いて部屋の様子や避難グッズを説明する」「英語とポルトガル語に翻訳された言葉の意味を知り、日本語で会話を作る」「注意事項やアドバイスを読む」

(8) 成果物の添付

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

日本語を学びたいというニーズは高いものの、多くの日本語教室が週末の開講であるため、外国人が通いやすい平日の夜などの時間帯に講座がなかったり、また、既存の日本語教室では、座学での詰め込み型の講座が多く、学んだことをすぐに実践し、その上で新たに感じた疑問を解決する仕組みがないことが多い。この度の事業では、学習者が参加しやすい時間帯や立地を念頭に置き、日本特有の制度や仕組み、また、生活する上での便利なツールや方法を、生活に必要な日本語を通じて座学と実践の組み合わせで学び、生活能力の向上を目指す。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

受講生が通いやすい平日の夜に日本語教室を開催したこともあり、10名以上の人数を確保できなかったとはいえ、出席率は非常に高く、最後まで高い学習意欲が持続された。

少人数であったことで、日本語指導者や補助者の目が行き届きやすく、個別のフォローができ、授業についてこれなくなる受講生はほとんどいなかった。

日本語ボランティア養成講座では、日本語教室に携わった経験のある方はもちろん、これから携わりたい、また、外国人のために何か役に立ちたいというモチベーションの受講生が多く、今後の当社の日本語教室にも積極的にボランティアとして参加してくれるであろう人材とのネットワークができた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

地域にはまだまだひらがな、カタカナの読めない外国人も多い。標準的なカリキュラムではこのような外国人とレベルの比較的高い外国人への対応方法を変えることが難しい。同じテーマで、役割や内容を変えるなど、テキスト構成や活動(実践)のヒントになるようなものがあれば良いと思った。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

日本語ボランティア養成講座を受講した方が美濃加茂市の日本語教室にも積極的に参加している。同市国際交流協会と学習者に関する情報交換、学習者に同市協会のイベントや教室の紹介をしている。学習者と日本人ボランティアも互いに連絡を取り合っている。

(5) 改善点、今後の課題について

近年、フィリピンからの呼び寄せで10代の子どもが多く、今回の日本語教室でもたくさんのフィリピン人が学びに来た。10代の学習者からは、「学校で先生の日本語分らなかった」や保護者からは「学校からのお便りが分からない」「日本の学校行事や教育が分からない」という意見が多かった。不就学の児童・生徒もいるので、保護者に教育の大切さを知ってもらおうと共に、美濃加茂市国際交流協会と情報交換し、地域の現状をさらに把握する。テキストには義務教育や学校行事、高校進学説明会について学べるチャンスを作りたい。日本語ボランティア養成講座に来る日本人と外国人の保護者が、子どもの学校について質問し、双方が知る機会があるといい。

(6) その他参考資料